

考えよう 防災のこゝと

【問合せ先】地域安全課消防防災係
(☎ 28-9510)

災害ごとにとるべき行動を確認しよう

災害の発生に備えて、事前に避難先や避難経路を確認しておくことが大切です。さらに、災害別に必要な行動も日頃から確認し、自然災害から身を守りましょう。



災害から身を守るために、最善の行動を！



地震

- ▼揺れが小さくても油断はできません。机の下に入るなど、身の安全を確保しましょう
- ▼強い余震が発生する場合に備えて、速やかに指定緊急避難場所などへ避難してください
- ▼余震などで家が崩れる場合があるため、屋外に避難した後は、安全が確認できるまで家の中の物を取りに戻ることは絶対にやめましょう

【通電火災】

停電した状態のまま避難すると、電気が復旧した時に、配線などが発火し火災が発生する場合があります。避難する前にブレーカーを落としましょう。



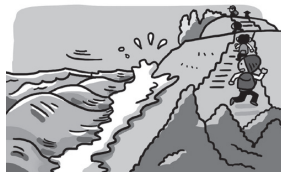
土砂災害

- ▼ハザードマップなどを参考に、土砂災害のおそれがある場所をあらかじめ把握しておきましょう
- ▼雨が降り出したら、大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報などの防災気象情報に注意しましょう
- ▼避難所への移動が難しい場合は、近くの頑丈な建物の2階以上に避難してください。それも難しい場合は、自宅の2階以上の崖から離れた場所に避難しましょう



津波

- ▼津波注意報、津波警報、大津波警報が発表された場合は、急いで海岸から離れ、安全な高台に避難しましょう
- ▼津波は繰り返し発生するので、警報・注意報が解除されるまでは海岸や河口付近に近づかないようにしましょう



洪水

- ▼大人が歩ける水深の限界は約50cmです。避難が遅れて浸水が始まった時は、近くの頑丈な建物の2階以上など、安全な場所に避難しましょう
- ▼避難する時は運動靴を履きましょう。長靴は水が入り危険です
- ▼自動車での避難は車ごと水没する危険があるほか、緊急車両などの通行を妨げるおそれがあります

災害時の非常持ち出し品を準備しておきましょう

非常持ち出し品は、1週間分、最低でも3日分の飲料水、食料及び生活必需品が必要です。避難する際は両手が自由に使えるよう、リュックサックなどにまとめ、すぐに持ち出せる場所に保管しておきましょう。また、新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク、アルコール消毒液、体温計なども持参してください。

非常持ち出し品チェックリスト

- 食料
- 飲料水
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯(予備電池を含む)
- 救急医薬品(常備薬、風邪薬など)
- 貴重品(現金・通帳・保険証など)
- 感染症対策用品(マスク・アルコール消毒液・体温計など)
- その他(着替え・タオルなど)